

プロフィール

【磐笛奏者】

玉川 紗羅（たまがわ さら）

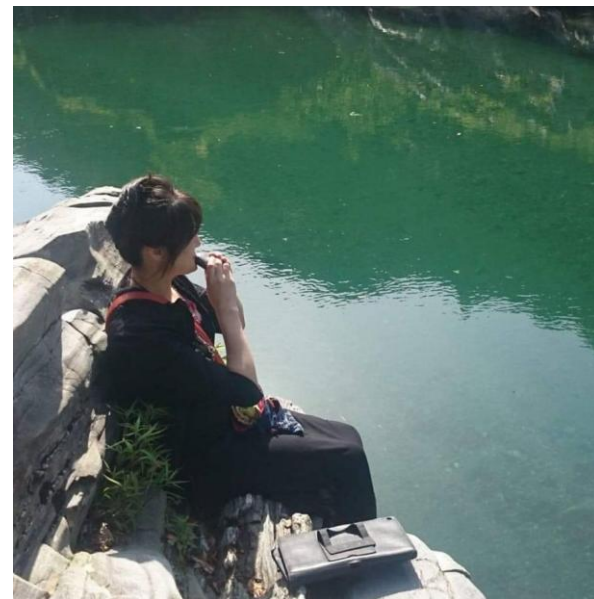
【出生】

昭和40年 北海道稚内市で生まれる

父は樺太で生まれ引揚げ船で稚内へ

母は旭川で生まれ青森県大湊で育つ

父方祖父は青森県東津軽郡外ヶ浜蟹田（大平山元遺跡）



【中学生】

フルート・ピッコロを始め、演奏の楽しさを知る

【高校生】

東海大学第四高等学校吹奏楽部で全国大会金賞を受賞

【現在まで】

中国武術を10年間継続し、心身を鍛える

磐笛に出会い 磐笛奏者として活動

日本古来からの失われゆく古代の叡智を未来に大切に繋ぎゆく

五感で捉え、それらを超えた第六感を含めての波動によるアプローチを
紗羅の「Muu-セラピー（六つの癒し）」として準備中です。

「祈り」とは「いにしえ」からの魂の想い～
受け継がれた命は叶えられた祈りそのもの

遙かいにしえ、古代縄文期における祭礼の最初に響く磐笛は
天と地を繋げ、神様に降りてきていただく為の御神具でした
「人々は何故に祈り、何を想い、その願いは叶えられたので
しょうか」

古代縄文時代に想いを馳せてみてください・・・いにしえの
彼方、人々は今も貴方を「あなたが幸せであるように」と願
っています。

磐笛による古代からの響きは22,500Hz、人間の可聴領域を
超えた倍音を含んでいます。この響きが身体と心と魂に共振
共鳴し感應する。その癒しの効果は魂の開放に繋がると言わ
れております。

物言わぬ石が息を吹き込むことによって有史以前からの地球
の歴史を音魂となって神の力となり風の渦を起こし響きとな
るのです。

磐笛の響き

岩笛は、約5000年前の縄文時代中期頃に使用され始めたと推測される楽器です。

三島由紀夫

著書の「英霊の聲」（河出文庫刊）中で以下のように書き記しています。

岩笛の音は聞いたことのない人にはわかるまいが、心魂をゆるがすような神々しい響きを持っている。清澄そのものかと思うとその底に玉のような温かい不透明な澱みがある。肺腑を貫くようであって、同時に、春風駘蕩たる風情に充ちている。又ある日は、千丈の井戸の奥底にきらめく清水に向かって、声を発して戻ってきた甬をきくような心地がする。

磐笛の響き

出口王仁三郎

天の岩笛なるものは一に天然笛と云い、又、石笛とも称えて、神代の楽器である。之れに口をあてて吹奏する時は、実に優美なる声音を発するものである・・・」

『此れ岩笛を吹奏するには、余程鍛錬を要するものである。吹きざまによりて千差万別の音色を出すものであるが、総じて耳に立って喧(かまびす)しい。むやみに「ピューピュー」と吹くのは良くないのである。「ユーユー」と長く跡の音を引いて

『幽』と云う音色を発生しせめるのが、第一等である』(本教創世紀)

紗羅の磐笛について

古代の叡智を現代の匠で未来に繋ぎゆく

大いなる導きにより磐笛を授かって以来、全国の神社や聖地で音霊と武魂の奉納を続ける。

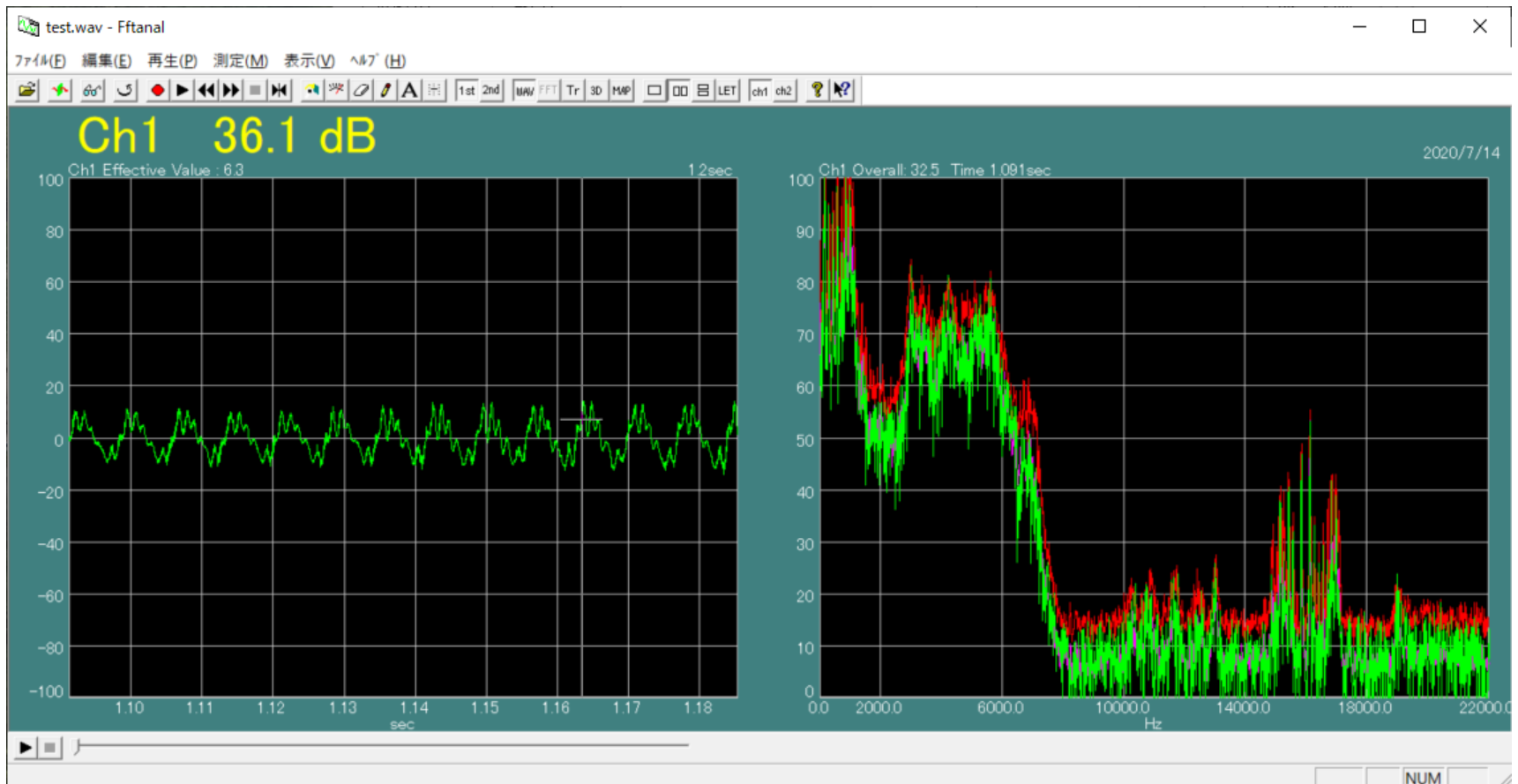
「古神道奏法」をはじめ、「能管的即興」「小鳥のさえずり」「かごめかごめ」など、本来一音しか出せない磐笛を横笛のように自在に奏でる独自奏法で知られる縄文文化や古神道、祈りの本質を研究し、各地で授かった石を磐笛として蘇らせ、その響きを音霊として表現。

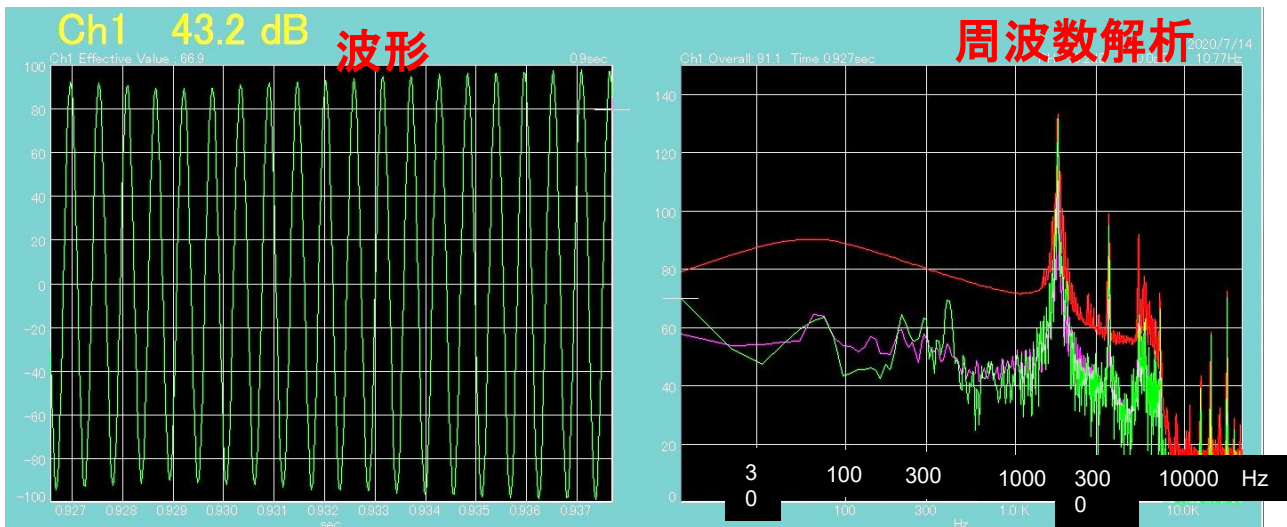
講演や演奏、朗読、瞑想、セラピーを通じて、「命・ご先祖・大地」との繋がりを伝え、人と自然、過去と現在を未来へと結ぶ活動に取り組んでいる。

紗羅の磐笛

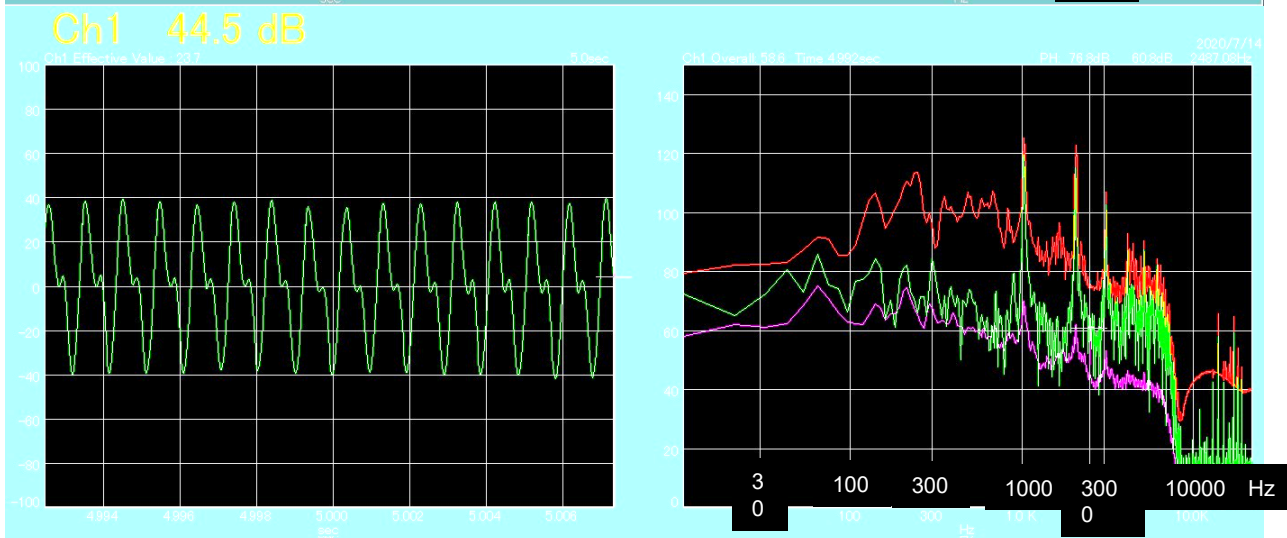


磐笛の高音域は2万2千ヘルツを超えることが実験で確認されていて、人間は高周波を含む音を多く聞いた時により多くのアルファ波が出るという実験結果も存在しています。22000Hz 22KHz





磐笛
ひすい



ピッコロ C



富士祝祭 ～富士山組曲～ (CD)



本組曲作品は、多数なゲスト及び様々な音の世界を駆使し、さらには世界文化遺産登録の決め手となった「富士講」の行者の祈りや祝詞大蔵の生音などの音素材をも組み込んだ一大音響詩であります。

作曲 編曲／金 大偉

大自然のマンダラを織り成す
世界最新の富士山組曲

ちょっとブレイクタイム☕

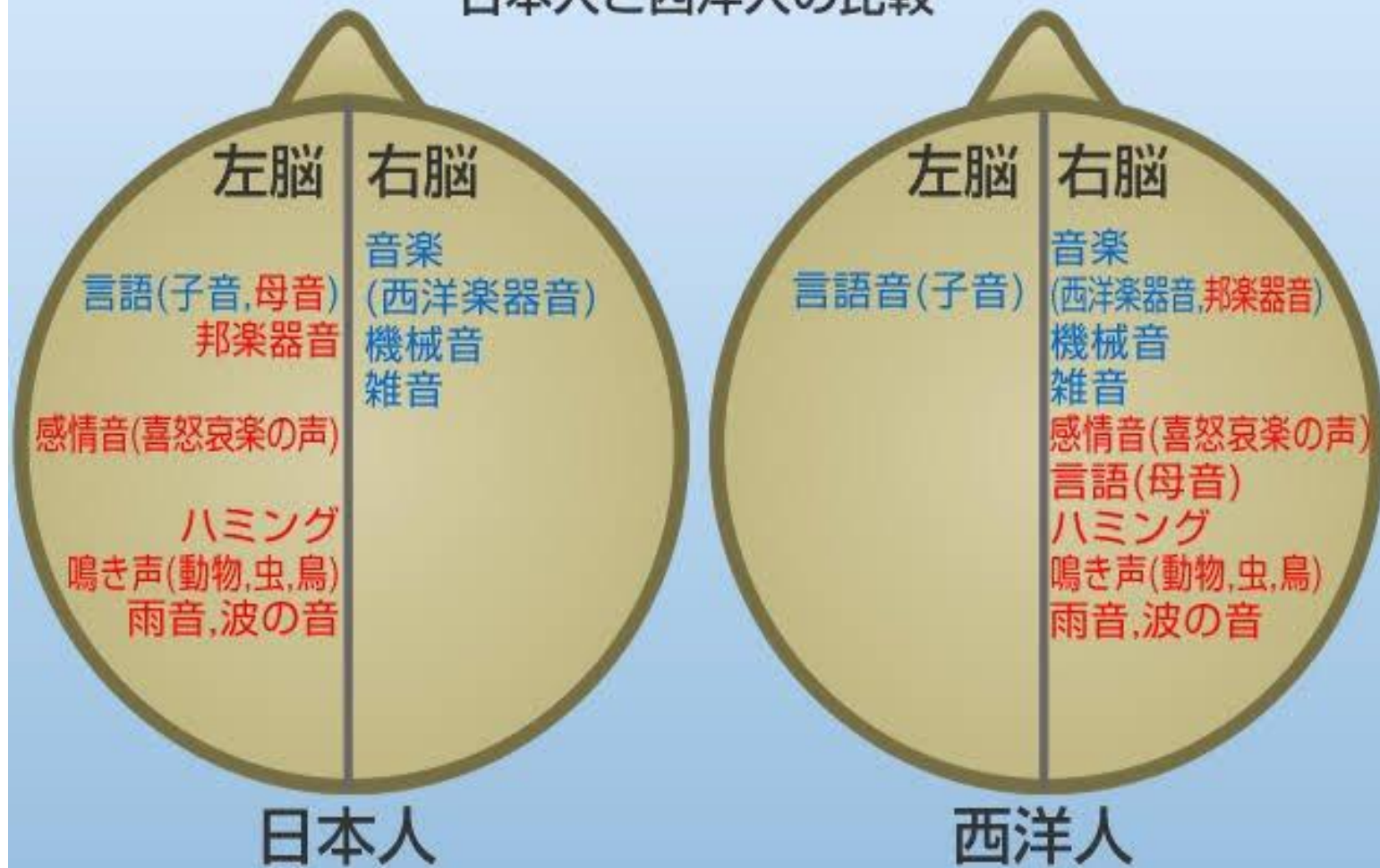
アナタの**脳の特徴**と**性格**がわかる!? どちらが**下**にくる?

腕を組む 手を組む		 左腕が下	 右腕が下
 左手が下	A 左左 脳タイプ ささ脳	真面目 努力家 行動が几帳面	B 左右 脳タイプ さう脳
			社交的 おしゃべり クヨクヨする
 右手が下	C 右左 脳タイプ うさ脳	完璧主義 個性派 自己中心的	D 右右 脳タイプ うう脳
			楽天的 マイペース 直感で行動する

日本人の和脳

音の認知

日本人と西洋人の比較



まわり歌

ホツマツタエより

なかきよのとおのねふりのみなめさめ

なみのりふねのおとのよきかな

「長き夜の、遠の眠りの、みな目覚め、

波乗り船の、音の良きかな」

航海の夜の安全やひとびとの世の安寧を願った歌であり

ホツマツタエでは、住吉（すみよし）大神であるカナサキ
が詠ったとあります

きしいこそつまおみきわにことのねの

とこにわきみおまつそこいしき

「キシイ（紀州）こそ、妻を身際に、琴の音の

床に我君を、待つを恋しき」

この恋文によって、ワカ姫とアチヒコ・（オモイカネ）と
結ばれたといわれます

まわり歌 さらりん♪

誰も知らなかった日本史

つみひす
だれもしらなかつた
にほんしシンホニー
たつかならし
もれだすひみつ

罪秘す
誰も知らなかった
日本史シンホニー
龍風ならし
漏れ出す秘密

「誰も知らなかった日本史」
出口恒氏（王任三郎のひ孫）と飯塚弘明氏共著
ヒカルランド出版記念に寄せて さらりん♪
切紙神示と共に甦る 孝明天皇の遺勅





江戸北斗七星



江戸北斗七星



ご清聴ありがとうございました

